



©(株)エス・デー

『VIEW next』のウェブサイト『VIEW next ONLINE』のオープン準備が山場を迎える中、今号の取材で福井県立坂井高校を訪問しました。取材前日、福井駅に到着したのは夜遅く。ご当地グルメを楽しむ余裕はなく、カップ麺をすすり、眠りに就きました。

取材当日は、生徒の挨拶に元気もらい、先生方に伺った思いにあふれた取り組み(P.24～27参照)に感化され、帰路に就きました。「よい記事にするぞ～」と心躍らせながら福井駅に着くと、目の前に何と恐竜が!? 早速調べてみると、福井県は新種化石が多く発見されている恐竜王国で、実物大の恐竜の像やトリックアート壁画を駅に設置しているとのこと。その様は圧巻でした。前日は、恐竜が迎えてくれたことにも気づかないほど余裕がなかった私。心も身体も前を向いていることで、素敵な気づきや学びに出合えると再認識しました。(渡邊)

本誌・ウェブサイトの モニターを募集します

本誌・ウェブサイトに対するご意見やご感想を伺うアンケート等にご協力いただけるモニターを募集します。詳しくは、以下にアクセスしてください。

『VIEW next』高校版 モニター募集

<https://view-next.benesse.jp/view/article10441/>



『VIEW next ONLINE』 モニター募集

<https://view-next.benesse.jp/view/article01254/>



VIEWnext

高校版 2022年8月号

8月19日発行

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発行です先生方から
ご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2022年4月号へのご意見

生徒を主語にした地域連携に共感

本校では、2年次のインターンシップを地域と連携して行っているが、実施の前後に、協力してくれる地域の方々と情報共有をしているため、4月号の特集の、独立行政法人教職員支援機構の荒瀬克己理事長と編集部との対談で話題に上がった、「学校と地域が互いの連携の目的をしっかりと共有する」ことに共感した。今後も、生徒を主語に地域と連携していきたい。実践事例では、進学実績など、特色が異なる3つの普通科高校が紹介されており、各校の教育課程が参考になった。同じ県の静岡県立静岡東高校は、授業時間を65分間から50分間に変更したり、「オンリーワン・ハイスクール事業」に取り組んだり、学校全体で意識が共有されていると思った。今後も、3校の取り組みに注目していきたい。

静岡県立下田高校南伊豆分校 谷野公彦

外部への発信が、校内の活気にもつながる

これからは、自校がどのような活動を行っているのか、どのような生徒に入学してもらいたいのかなど、情報を外部に発信し、それが受験生の目に留まるかどうか、校内の活気につながるのだろう。4月号の「指導変革の軌跡」の神奈川県・私立関東学院中学校高校の記事を読み、取り組みを参考にしたいと思った。東京都・私立東京農業大学第一高校 小堀健一

教科横断型授業に大いに刺激を受けた

4月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された埼玉県・私立西武学園文理中学・高校の土屋進一先生の授業に衝撃を受けた。私が知っている教科横断的な授業は、例えば、地理の授業に化学や生物の内容を取り入れるといったものだ。英語科と国語科という異なる教科の教師がチーム・ティーチングで行う授業は初めて知った。そのような授業は、生徒・教師ともに刺激的で楽しく、何より、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」に生徒をいざなうことができるのではないかと感じ、大変参考になった。徳島県立小松島高校 牧野浩章

今後の進路指導を検討する際の参考に

総合型選抜や学校推薦型選抜の募集人員が増える中、一般選抜の受験者が中心である本校の進路指導のスケジュールを変えるかどうか、検討している。そうした中で、新コーナーの「マイ・ストーリーを語れる生徒を育てる進路指導」では、具体的な指導事例が紹介されており、参考になった。早速、3学年担当に共有したい。山形県立米沢東高校 高橋英路

就職指導の学校事例に注目したい

新コーナーの「クローズアップ! 就職指導」は、就職指導にフォーカスしている点が新鮮で、興味深い企画だと思った。企業の終身雇用や年功序列型賃金に陰りが見え始めている今、高校卒業後、すぐには進学せず、就職してから進学するといったキャリアプランも選択肢の1つなのかもしれない。ぜひ、次号以降の学校事例も参考にしたい。

静岡県・私立沼津中央高校 後藤松太郎